



みんなできずく出す すいりゅう・いきいきプラン

～人と自然の持続可能な交流をめざして～



大町ダム水源地域ビジョン

目 次

1. 大町ダム水源地域ビジョン策定の考え方	1
2. ビジョンの理念	7
3. ビジョンの方向性	10
4. ビジョンの取り組み	17
5. ビジョン実現化の方策	31

1

大町ダム水源地域ビジョン策定の考え方

(1) 策定の主旨

(水源地域ビジョン策定の主旨)

これまでダムは治水、利水等、主に下流域の国土保全、国民生活の安定、産業経済の発展のために大きな役割を果たしてきた。21世紀では、これらのダムのもつ効果に加えて、ダム及び水源地域の豊かな自然、文化等を活用した地域の振興及び、バランスのとれた流域の発展を図ることにより、国土のランドデザインの一部として機能することが期待される。この点を踏まえ、国土交通省では、直轄ダム、水資源開発公団ダムについて、ダムを活かした水源地域の自立的、持続的な活性化を図るための「水源地域ビジョン」の策定を進めている。

(大町ダム水源地域ビジョン策定の主旨)

大町ダムは、北アルプスを源流とする高瀬川上流に位置し、洪水調節、農業用水等の補給や大町市、長野市などの水道水の確保、発電等を目的に昭和61年供用開始をした多目的ダムである。

ダムの完成により、下流域では水害からの安全が確保され、主に右岸の農業用水が安定供給されるようになった。また、龍神湖の散策コースやダムに隣接する高瀬渓谷緑地公園は、紅葉探勝、写真撮影等で多くの人々と自然のふれあいの場もうまれた。ダム周辺は、年間行事の高瀬渓谷フェスティバルの会場として水や森に親しむレクリエーションの場として活用され、また、流域住民の憩いの場としても親しまれ、総合学習の場としても効果をあげている。

これらの空間は、治水・利水・発電等の機能に加え、精神的な安らぎやゆとりをうみだし、地域周辺の人々の交流する場としての機能がますます求められてきている。

以上のような視点にたって、大町ダム水源地域ビジョン（以下、本ビジョンとする）では、ダムのもつ多様な機能を活かし、水源地域の自立的、持続的な活性化と、高瀬川流域内の連携と交流によるバランスのとれた発展を目指す「行動計画」を策定する。

なお、本ビジョンは、大町ダム管理者やダム事業者、高瀬川流域の住民と各自治体関係者、関係行政機関とが共同で策定する。

大町ダムの概要

高瀬川と大町ダム

大町ダムは信濃川水系高瀬川に位置し、昭和 44 年 8 月に発生した大洪水を契機に計画され、洪水調節、利水、発電等を目的として建設された多目的ダムである。

ダムに流入する高瀬川は日本アルプスの槍ヶ岳 (3,180m) を源とし、流域面積約 445km²、流路延長約 56km の勾配の急な河川である。ダム上流での年間降水量は約 1,500～4,000mm と梅雨期、台風期に加え、冬季にも多く見られるなど、山岳部特有の気候の特徴を示している。

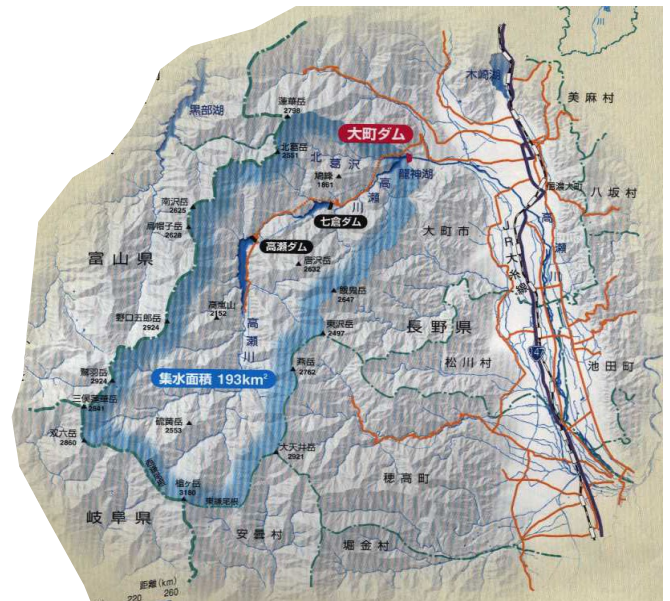


図 大町ダムの位置と集水域

大町ダムのもつ主な機能

大町ダムは、流域の人々が常に安全で豊かな生活を営むための様々な役割を担っている。

○洪水の調節

大町ダムは、過去の大雨の記録を解析し、1秒間に 1,500m³ の洪水が流れることを想定して計画されている。このうち、1,100m³/s 分をダムに貯水し、残りの 400m³/s 分だけを下流の河川に流している。

○農業用水などの補給

大町ダムの貯水は、下流の農業用水や渇水時の流水の補給に使われる。渇水時に、高瀬川沿岸の農地約 3,000ha に用水の補給や犀川筋における流れの改善等に使われる。

○水道水の確保

水道水の確保のため、渇水時には最大 180 万 m³ の水を利用して、長野市に対し 1 日最大 100,000m³、高瀬広域水道企業団 (大町市、池田町、松川村) に対し 1 日最大 18,000m³ の水を供給する計画となっている。

○発電

ダム貯水池から放流される水は、大町ダムの直下にある大町発電所 (最大出力 13,000kw) をとおり、電力エネルギーに変換される。また、大町ダム貯水池を逆調整池とした中ノ沢発電所 (最大出力 42,000kw) を合わせ、合計最大 55,000kw の発電が可能である。

○周辺住民を中心とした交流の場

(高瀬渓谷フェスティバル等)

地域の人々が自然とふれあい、森と湖に親しむ機会として、「森と湖に親しむ旬間」に毎年 7 月、高瀬渓谷フェスティバルが高瀬渓谷緑地公園にて開催されている。

○癒しを充たす自然保養空間の提供

(龍神湖の散策コース等)

大町ダムから高瀬川の上流へ向かう全長約 3,600m の湖面の巡視を兼ねた散策コースとして整備している。また、この龍神湖散策コースや高瀬渓谷の自然などを紹介した「高瀬渓谷自然観察ノート」を作成している。

○総合学習の支援

ダムは地域との関わりが深いことから、貴重な体験学習の場として活用できるよう総合学習を支援している。大町ダムの概要説明、ダム内部や操作室の見学のほか、職業体験学習の場として提供している。

(大町ダム事業概要パンフレットより作成)

(2) 策定の体制

本ビジョンは、学識経験者や流域の自治体関係者、住民からなる「大町ダム水源地域ビジョン策定委員会」により策定した。策定にあたり、委員会の部会にあたる会議を設置し、幅広い発想でビジョンへの提言をとりまとめた。委員会ではこの提言をもとに、より広範な視点からの検討を加えつつ、ビジョンの策定を進めてきた。

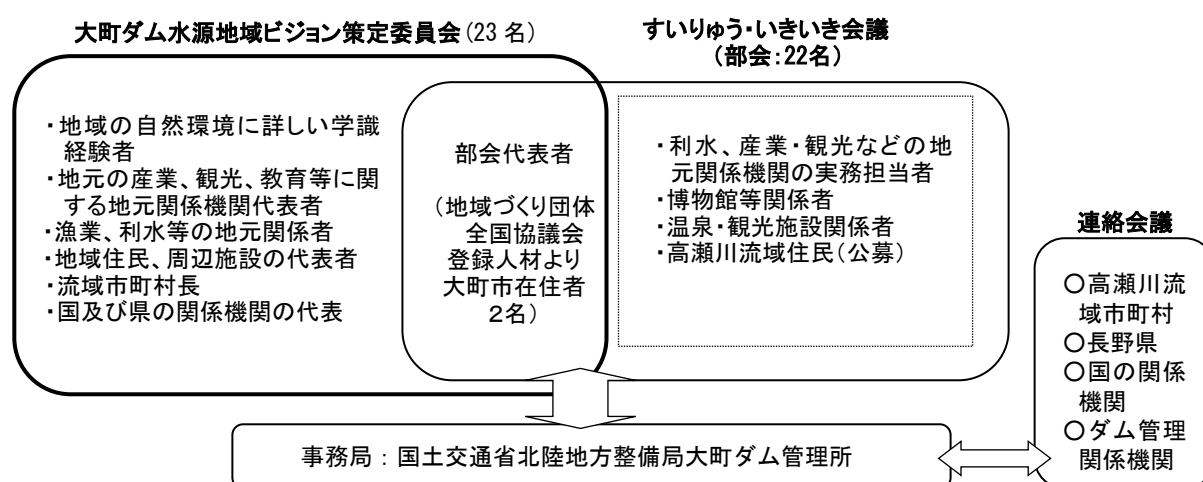


図 大町ダム水源地域ビジョン策定体制 模式図

○すいりゅう・いきいきとは

部会の通称である「すいりゅう」と「いきいき」は、大町ダムのキャラクターである「犀龍と泉小太郎」にまつわる伝説や、会議の役割等を勘案してつくられてきた言葉である。その主旨は次の2点である。

- ・犀龍（さいりゅう）と泉小太郎伝説として残るような「水の神」によってもたらしたとされる豊かな平地・安曇野を潤す高瀬川の「水（すい）」「川の流れ」が「いきる」ようにするために、みんなで知恵を出し合う会議であること。
- ・大町ダムに集まる水、そこから流れ出る水を活かし、高瀬川の流域（りゅういき）を中心とする活性化に向けたきっかけとなる会議であること。

犀龍と泉小太郎伝説

昔、安曇野から松本平にかけては、まんまんと水をたたえた湖であった。その主の犀龍と山向こうの池の白龍王との間に生まれた日光泉小太郎は、湖のほとりに住む老夫婦に人間の子として育てられた。

小太郎は、湖の水をなくして豊かな郷土をつくりたいと願っていた。その後、ここ、ダムの地、尾入沢で再び逢った親子は心が通じ合い、犀龍は背中に小太郎を乗せ、山清路の岩盤を打ち破って湖の水を日本海へ落とし、この地を豊かな平野にした。



犀龍と泉小太郎(高瀬渓谷緑地モニュメント)

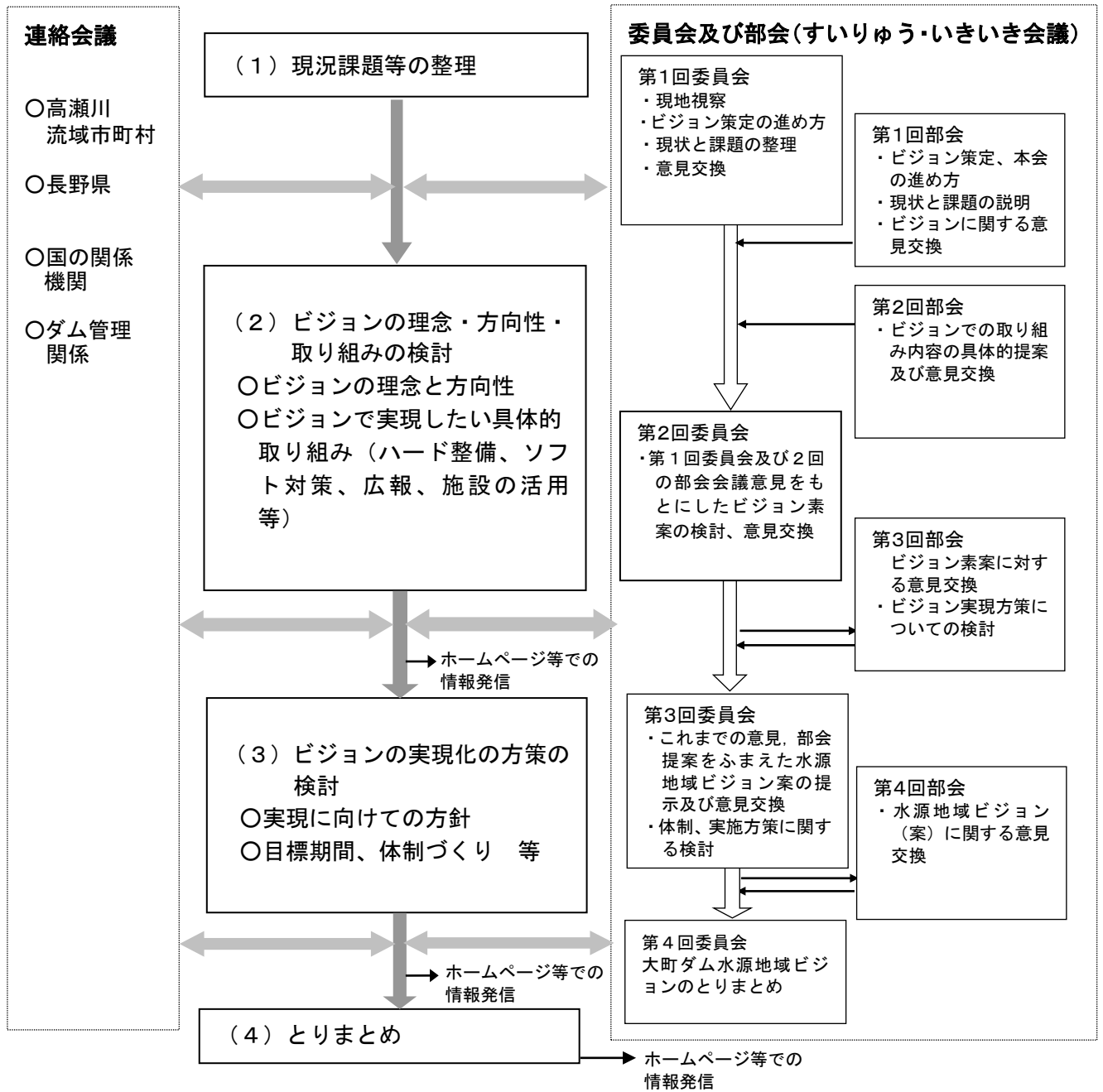


図 大町ダム水源地域ビジョン 策定の進め方

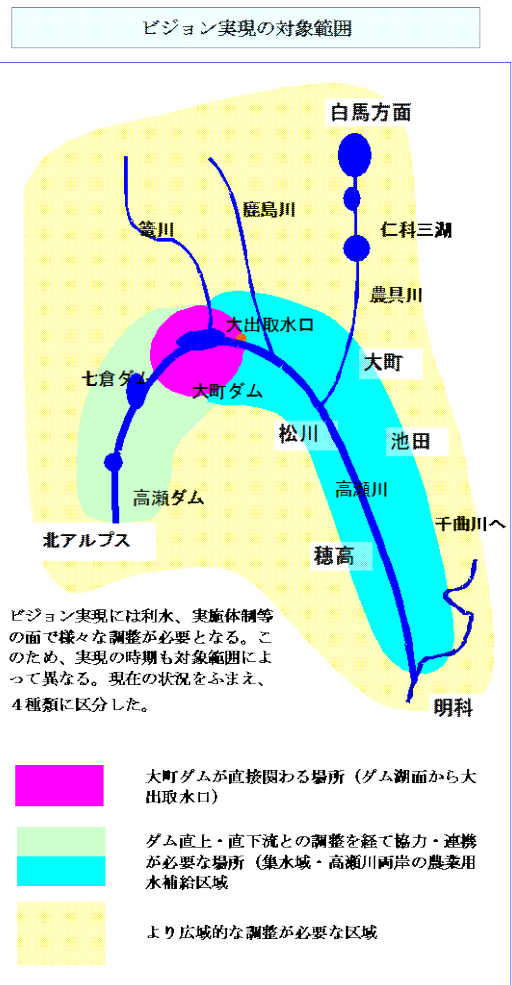
(3) 策定対象範囲の考え方

本ビジョンの策定対象範囲は、高瀬川流域の関係市町村とする。この対象範囲は、大町ダムを地域活性化の核としてとらえ、連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図る観点から規定する。

大町ダムの位置する高瀬川は雄大な山岳・北アルプスに生まれ、安曇野の美しい田園を潤している。流域住民や来訪者は、この流域全体が広い意味での水源地域というイメージをもつ。大町ダムの集水域は槍ヶ岳、大天井岳、蓮華岳といった北アルプスの代表的な山々である。ここはまさに、日本の屋根。わが国の最上流の山岳、豊かな自然に生まれた清冽な水を湛える我が国有数の水源地域としても広く知られている。



大町ダムの水源地域は大町市域であるが、本ビジョンの策定範囲は上記のような印象を踏まえつつ、大町ダムを地域活性化の核としてとらえ、ダムを起点に流域内の連携と交流の輪を広げることを目指していく観点から、高瀬川流域の関係町村を含む範囲として考える。



(4) ビジョンの内容の考え方

本ビジョン策定にあたっては、「もの」や「こと」以上に、「やり方」や「考え方」に重点を置き、将来にわたり地域要望にもフレキシブルに対応できる内容を目指す。

本ビジョンでの具体的な取り組みは、部会、委員会を通じたできるだけ幅広い意見、提案をもとに、ビジョン実施のための役割分担、連携・協力の方法などの枠組みを検討して、可能な範囲及び内容について整理する。一方で、大町ダムエリアとその上下流の地域活性化につながる内容は「もの」や「こと」を決めること（例として予算前提のハード整備）以上に、「やり方」や「考え方」を含めたソフトの構築を主として考える。大町ダムエリアとその上下流の地域活性化につながる、将来にわたっての多様な要望にもフレキシブルに対応できる内容とする。

(5) 実現のための体制の考え方

ビジョンの実現の施策、体制の考え方は、内容により流域内の地方自治体、住民、ダム管理者等が役割分担、連携・協力の方法などの支援方策を検討し、推進体制をつくる。

本ビジョンは、大町ダムを活用した地域づくりを進めるための行動計画である。その実現のために、流域内の自治体、住民、ダム管理者等が役割分担・連携・協力などの支援方策を検討し、推進体制をつくる必要がある。

この推進体制は、ビジョンの理念を継承し、具体化に向けて地方自治体、住民、ダム管理者等の協議会、実行委員会、サポーター等の情報の共有化を図り、一体となって地域活性化に取り組んでいくことを基本とする。

(6) 実現に向けての進め方

本ビジョンにもとづいて進める具体的な取り組みや活動は、今後推進体制を構築し、実現に向けての課題、実施主体等を整理しながら具体化する。

本ビジョンでは、今後の具体化に向けて、確実な取り組み方を整理した。なお、本ビジョンの実現に際しては、実施主体を明確にし、様々な課題を解決していかなければならない。また、社会情勢等に応じて、ビジョンの内容に関しての定期的な更新、変更も必要であると考えられる。

2

ビジョンの理念

本ビジョンの「理念」は、ダムを活かした地域の発展・活性化のための行動を具体化するうえで共通認識となるものである。

みんなでずく出す すいりゅう・いきいきプラン

～人と自然の持続可能な交流をめざして～

ずく…ものごとに立ち向かう気力や活力、勇気などを表す長野県の方言

大町ダムは、高瀬川流域に暮らす人々を水害から守るとともに、下流の安曇野の農業や産業、生活を支えている。また、現代の暮らしの基盤となった電力の一大供給拠点として重要な役割を担う、大町ダム、七倉ダム、高瀬ダムの3つの巨大ダムは、わが国を代表する水源地の一つである。同時に、水源地周辺に点在する、北アルプスの山々を礎に育まれた高瀬溪谷の複雑な地形がもたらす、変化に富んだ風景、豊かな自然の恵み、湧出する温泉源は、国内外に誇れる貴重な自然資源である。

ここからの恵みを受けて生きる私たちは、そこに育まれた水の利用や水にまつわる歴史、文化等を、後世に伝え残すことに取り組んでいく必要がある。

そのための第一歩は、水害や水の大切さを忘れつつある日々の生活のなかにあつて、この地域を見て、学び、知り、そしてふれあい、それらを再認識することからスタートすることである。さらに、こうした取り組みをきっかけに広がる様々な体験や交流は、日々の喧噪に追われる現代人の人間性を回復させ、安らぎやゆとりを生み出す重要な機会にもつながる。

大町ダム水源地域ビジョンでは、大町ダムを起点にしながらかのような取り組みを実践して、北アルプスに育まれた自然の恵みと人とが相互に持続可能な形で交流を深めていくことを目指していく。

このビジョンでの様々な取り組みが、人と人の交流の輪を流域内に広げていく原動力となるとともに、そこに参加する人々みんなが「ずく」を出して、互いに手を取りあつていくことが大切であると考えている。

＜理念実現のための基本的な姿勢＞

理念の実現のために、内容に沿って次の3つの基本的な考え方をもち、これらをビジョンの方向性や具体的な取り組み内容に反映させていく。

～既存資源の保全と活用～

大町ダムを含む高瀬溪谷、高瀬川とその水を育んでいる北アルプスなどの自然資源に対する価値を再認識するとともに、そのなかで育まれた歴史や文化にも目を向けながら行動することが流域に暮らす私たちには求められる。このために、既存の自然資源を保全しつつ、人と自然の持続可能な交流の実現にむけての取り組みが、本ビジョンの基本姿勢である。また、溪谷沿いの森や水辺が創出する美しい景観や、温泉などのもつ保養機能を活かしながら、やすらぎの場としての高瀬溪谷のよさを未来に引き継いでいく。

～学び、体験することからはじめる活性化～

ダムを核とした地域の活性化のためには、現地を訪れ、実体験し、五感を活用して、豊かな自然の恵みを実感しようとする姿勢が大切である。その体験を通して、より多くの人にダムや水の働きや価値、その周辺一帯にもたらず自然の豊饒^{ほうじょう}さを知ってもらうきっかけとしたい。

そのために、流域内の人々が、気軽に学び、ふれあい、体験、交流できる場づくりを継続的に取り組んでいく。

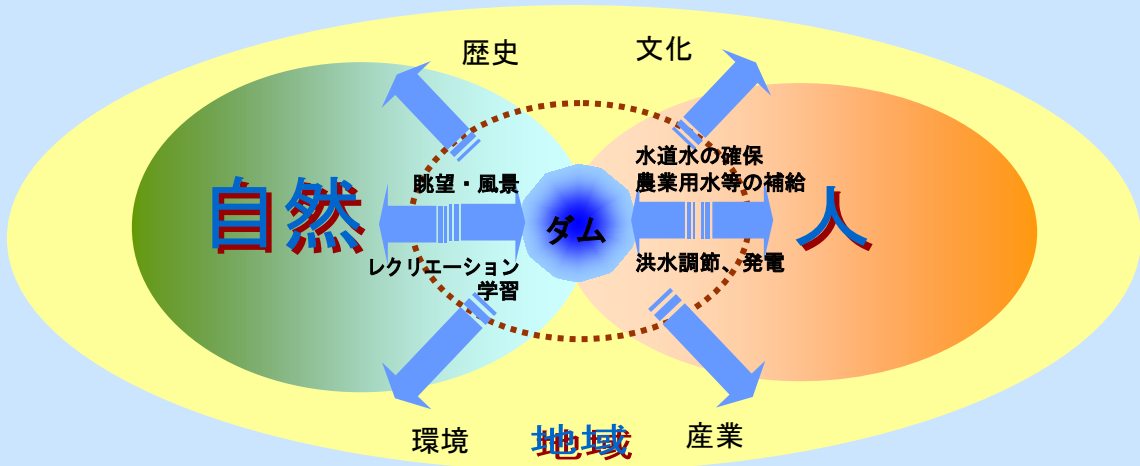
～地域内の多様なネットワーク形成～

流域内にある様々な資源を活かすことができるよう、関係する組織や人々の連携の強化、ネットワークの形成を重視する。既存のしくみや人材を活かしながら、さらに機能を強化し、地域産業などの活性化へと継続的に寄与していく。

みんなですく出す すいりゅう・いきいきプラン

～人と自然の持続可能な交流をめざして～

ビジョンの基本理念



既存資源の保全と活用

渓谷の豊かな資源を大切に、そして、有効に活かそう！

学び、体験することから始まる活性化

「知って、見て、ふれて学んで、肌で感じて」をきっかけにしよう！

地域内の多様なネットワークの形成

地域に人や物の様々なつながりをうみだそう！

ビジョンの方向性

いかす

ダム開放・ダム湖利用

Activity

大町ダムのもつ既存の機能やストックを活かし、付随的な施設の整備、広報の充実等により、ダム及びダム湖面の利用促進を図る。

たいかん

体験学習

Learns

大町ダム本体、龍神湖のほかダム上下流の自然環境を活かし、地元との連携のもとで運営できるしくみの構築を進めながら、体験学習の場を提供していく。

ふれあい

参加・交流

Orientation

大町ダム及び高瀬川流域の特性を活かしたイベントを通じて、ダムや水辺、周辺の自然等にふれあう導入部となる機会を創出する。

れんけい

周辺施設・資源の利活用

Network

高瀬、七倉、大町の3ダム、エネルギー博物館、テプコ館などの博物館的施設等、大町ダム周辺に位置するダムと関連する施設の利用、運営における連携を深める。

はってん

地域産業の活性化

Growth

ダム及びその周辺資源を都市との交流、滞在型利用、観光振興に活かし、地域産業の活性化や発展の役割の一端を担う。

3

ビジョンの方向性

基本理念をふまえ、5つの方向性を定め、本ビジョンでの具体的な取り組み内容を具体化していく。

I. いかす

ダムへの開放・ダム湖利用

～ダムへの親しみやすさの向上～

(Activity: 活動、はたらきかけ)



II. たいかん

体験学習

～魅力ある豊かな森や水への誘い～

(Learns: 習得、身につけること)



III. ふれあい

参加・交流

～身近な自然とふれあうきっかけの提供～

(Orientation: 導入、方向付け)



IV. れんけい

周辺施設・資源の利活用

～美しい渓谷を楽しむ「プラスα」の創出～

(Network: つながり、ネットワーク)

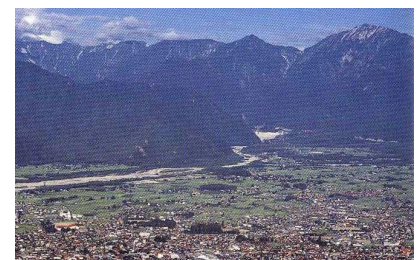


V. はってん

地域産業の活性化

～持続性ある観光振興への寄与～

(Growth: 発展、成長)



ALONG... ～に沿って(高瀬川に沿って、人から人へ、場所から場所へ)

along with →意見が一致して(つくったプラン) be along→(新しいダムの時代が) やってくる、到着する

I. ダムの開放・ダム湖利用促進

(いかす)

～ダムへの親しみやすさの向上～

大町ダムのもつ既存のストックを活かし、施設の補完的な整備により既存の機能を強化するとともに新たな機能を創出し、利用促進を図る。

また、情報発信、地域住民や来訪者に向けた施設の開放等により、親しみのもてる施設としての機能を高めていく。

そのために、ダム資料室等の施設拡充、広報活動、レクリエーション利用等を推進する。



レクリエーション利用（高瀬渓谷フェスティバル）



高瀬渓谷緑地公園の利用（遠足）



龍神湖の散策コースの案内マップ

<取り組むうえでの配慮>

①自然との親しみ、ふれあいのステップを重視

クマやサルもすむエリアとして、きっかけを提供し、より深い体験へ。自然の中で親子、グループなど様々なふれあいが実現できるよう、ダム、ダム湖周辺を活用していく。

②運営体制、ソフトの充実

施設整備に限定せず、ダム周辺の自然をフィールドとした環境学習の役割を重視し、ここでの体験を利用者が共有できる運営やソフト提供の工夫を進める。

③利用規制区域でのオーバーユースの回避

水源地域には、森林生態系保護地域の保存地区や自然公園の特別保護地区等の利用が規制される区域が存在する。法規制等により利用の規制がある自然豊かな区域を中心に、オーバーユースを避け、保全と利用のバランスを保つ。

④自然のなかでの安全確保

自然での体験や知識の浅い人から深い人まで、多様なニーズを考慮しながら利用者の安全確保に取り組む。

Ⅱ. 体験学習

(たいかん)

～魅力ある豊かな森や水への誘い～

大町ダム本体、龍神湖、ダム上下流周辺の自然環境は、総合的な学習の場として十分な魅力を持っている。そこで、地元の専門家、各組織と連携し、運営できる仕組みを構築し、充実したプログラムを提供できるようにする。

特に、ここでは《水とのかかわり》をキーワードとした体験学習を提起していく。このプログラムは、現地において五感で実感しながら、地域周辺の自然や文化・歴史資源のあり方を、水＝湖や河川との関わりの中かで考えるものである。

これにより、多くの人々が大町ダム及びその流域一帯で、人と水のかかわり、さらには地域の自然や文化・歴史的資源等、水や自然をきっかけに、現地において肌で実感しながら、新たな発見や知見を増やしていくことができる。



小学生によるダム見学



中学生の職場体験



<取り組むうえでの配慮>

①人材の確保と育成

博物館、学校、地域の専門家、NPO組織などと実施主体との連携を強化し、人材確保に努める。

②情報の収集、蓄積、交換

情報の収集を進め、ストックを増やすとともに、情報の交換を積極的に行う。学校等への教材提供により、総合学習等多様な利活用に役立てる。

Ⅲ. 参加・交流

(ふれあい)

～身近な自然とふれあうきっかけの提供～

大町ダム及び高瀬川流域の特性を活かしたイベントを通じて、ダムにふれあう機会を創出する。ダムや水辺、水資源への興味・関心を高めるとともに、地域振興等への波及効果の創出に寄与していく。



スタンプラリー



魚のつかみ取り大会



ミニSL



堆肥化したチップの配布

(いずれも平成 13、14 年高瀬溪谷フェスティバルより)

<取り組むうえでの配慮>

①森や水辺に親しむ導入部としての機会提供

森や水辺に親しむきっかけづくり、オリエンテーションの役割を担っていることを踏まえ、一過性のお祭りに終わらず、ダムをアピールする場となるよう配慮する。

②地域住民の参加の推進

流域の住民を中心にした取り組みを重視する。住民から得られる反応をフィードバックしてより良いものとしたり、ロコミ等へ発展による参加の輪の広がりを大きくしていくことも重要である。

IV. 周辺施設・資源の利活用

(れんけい)

～美しい渓谷を楽しむ「プラスα」の創出～

高瀬、七倉、大町の3ダム、ダム下流のエネルギー博物館、テプコ館などの博物館的施設等の周辺施設の利用、運営における連携を深める。ダムと流域を結ぶ遊歩道等の整備、交通面での移動手段の確保・運営の工夫などに取り組む。これにより、高瀬渓谷来訪者の多様で幅広い余暇利用ニーズへの対応を図ることを目指す。



東京電力(株)による、新高瀬発電所における見学への案内



大町エネルギー博物館



高瀬川上流（湯俣方面）



高瀬ダムの湖面

七倉ダムの堤体

<取り組むうえでの配慮>

①黒部を含む4つのダムの連携

高瀬渓谷の3つのダムに限らず、場合によっては黒部ダムを含む4つのダムを視野に入れた連携も意識して取り組む。

②関係団体、組織の相互連携の強化・拡大

様々な団体、組織との関わりを深めて、連携の枠組みを強化、拡大していく。

③施設利用者の安全確保への配慮

連携のために整備される新規の施設整備や、北アルプスの山岳への移動経路確保にあたっては、施設の維持管理体制の充実や利用者の安全確保に留意する。

V. 地域産業の活性化

(はってん)

～持続性ある観光振興への寄与～

大町ダムをとりまく周辺の豊かな自然環境、温泉資源、来訪者の特性等から、本ビジョンでの取り組みは、ダムの位置する大町市及びその周辺地域の基幹産業のひとつである観光面からの産業の活性化に寄与することができる。ダム及びその周辺資源を都市との交流、滞在型利用、観光振興に活かし、地域産業の活性化や発展の役割の一端を担う。



大町市内から眺める大町ダム、高瀬川の流れの景観

<取り組むうえでの配慮>

①ダム下流域での多くの来訪者を意識した活性化

活性化には、ダムおよびその下流域を中心に、より多くの人々にきていただくことが重要。この認識にたつて、地域の人々が気軽に訪れ、来訪者を案内できるような水源地域の住民としての自覚を持ち、その自負を持って様々な取り組みを実践することが大切。

②豊かな自然を活かした体験の重視

本ビジョンを通じて活性化を図ることのできる地域産業としては観光を中心に据えるが、対象流域の自然の豊かさを考慮し、環境とのふれあいや体験を重視した取り組みを推進する。

Ⅲ. 参加・交流（ふれあい）

～身近な自然とふれあうきっかけの提供～

ダムでのイベント等の交流機会への参加を通じて、自然とのふれあいのきっかけを提供！

○自然・歴史的資源を活かしたイベント

- ・大町ダム一帯の豊かな自然資源を活かしたイベントを企画し、開催する。流木腐葉土配布を実施、継続するほか、堆砂の資源化・頒布、流木を使ったクラフト体験等ダムに堆積する資源を有効活用できる取り組みを進める。
- ・和歌・俳句愛好者向けのイベント、旧道の史跡発見等、地域の歴史や文化にふれあうことのできるイベントを研究していく。

<具体化のアイデア>

- ・建設業者などへ堆砂の配布 ・流木の薪としての利用
- ・流木の堆肥化、配布、常時頒布できる体制づくり
- ・流木を使ったクラフト体験
- ・日本人の繊細な感性を持つ人向けの企画を主体的に実施
- ・和歌・俳句愛好者向けのイベント
- ・旧道の史跡発見イベント

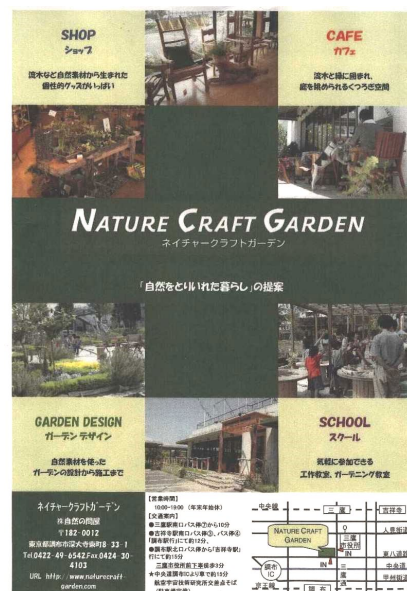
等

<参考となる取り組み>

- ・高瀬溪谷フェスティバルのほか、市の広報、新聞などで呼びかけて12月にも流木をチップにし、堆肥化して配布した（平成13年）。
- ・東京電力㈱出資の「自然の間屋」では、ダムの流木や天然石などの自然素材を様々な形で商品化、販売を行っている。



高瀬溪谷フェスティバルでの流木の展示



テブコ館に設置されている「自然の間屋」のチラシ

○集客力向上のためのしかけづくり

- ・ダムへの関心、ダムの知名度を高めることができるよう、高瀬渓谷フェスティバルを継続するとともにその内容の拡充を図るほか、注目度の高いイベント、地域住民等の参加者が高い関心を寄せるコンテストを企画し、開催していく。
- ・集客力の向上策の例としては、ダムをテーマとした写真、絵等のコンテストや、ダム壁面を活用した絵画や映像の提供、参加者への特典、顕彰等が考えられる。

<具体化のアイデア>

- ・男らしいダム、女らしいダムの写真コンテスト、ダムへの手紙コンテスト
- ・ドライブシアター、花火大会の開催
- ・既存のイベントとの連携強化、拡充（エネルギー博物館「森の暮らし」との連携）
- ・ダムで大町をあげた「まつり」を実施 ・他町村との共通イベントの開催
- ・「大町ダムの日」を設定してのイベント開催
- ・森と湖に親しむ旬間の充実（高瀬渓谷フェスティバルの拡充）
- ・ダム壁に龍神の絵を描き、珍しいダムとして知名度を向上（凹凸面にはトリックアートを活用）
- ・懸賞のあるイベントの開催 ・イベント参加者への入浴券や優待券の配布 等

<参考となる取り組み>

- ・高瀬渓谷フェスティバル
毎年7月末「森と湖に親しむ旬間」に高瀬渓谷緑地において開催されている。
(昭和63年より)

(高瀬渓谷フェスティバル2002 開催状況)

大町市、大町観光協会、漁協等の地元団体や、森林管理署、東京電力㈱等の協力を得て11種類のイベントを開催。約3,000人の参加があった。



丸太切り体験



大町市立仁科台中学校、
大町市立第一中学校吹奏
部による演奏会



巡視艇の乗船



ミニ新幹線



流木チップを堆肥化し配
布



魚のつかみどり大会

IV. 周辺施設・資源の利活用（れんけい）

～美しい溪谷を楽しむ「プラスα」の創出～

大町ダム周辺に位置する様々な施設や資源のつながりを利用運営面で強化！

○展示・解説の施設間の相互連携・役割分担

- ・ テプコ館、エネルギー博物館、ダム資料室、地下発電所等の周辺施設が相互連携を図り、展示等の役割分担を明確にしていく。

<具体化のアイデア>

- ・ テプコ館、エネルギー博物館、大町ダム資料室、地下発電所等の相互連携を想定した場合の解説や展示のあり方の検討
- ・ 大町ダム周辺～高瀬ダム一帯のエコミュージアムの利用 等



大町ダム資料室



大町エネルギー博物館（大町ダムに関する展示）



高瀬川テプコ館



新高瀬川発電所

○高瀬渓谷一帯を楽しむ多様な移動手段の創出

- ・高瀬渓谷の豊かな自然とのふれあいに対する多様なニーズに応えるため、高瀬渓谷での周遊型の多様な移動手段の創出を推進する。
- ・一例としてマウンテンバイク、低公害バス等による移動手段の導入や周遊バスの乗り入れ等既存バスルートへの延長・運用を検討していくことが考えられる。
- ・上流の自然公園区域での利用規制や高瀬ダムに通じる管理道路での安全管理体制の確保などと一体で検討していく必要がある。

<具体化のアイデア>

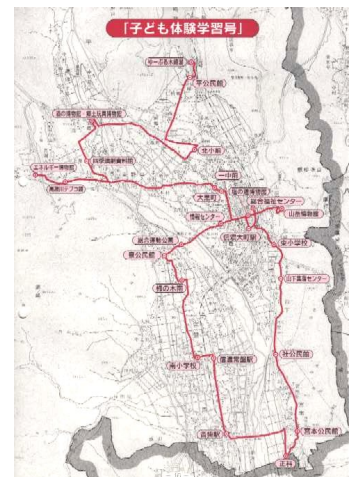
- ・管理所を基地として、徒歩、電動自転車、マウンテンバイク、低公害（電気、水上）バス等の組み合わせにより回遊（半日、一日、宿泊型）できるシステムの構築
- ・大町温泉郷、葛温泉、湯俣の3つの温泉を四季で楽しむ使い分けエコバスなど環境にやさしい移動手段の導入
- ・テプロ館のバス用のバス停を設置し、途中乗車や下車ができるしゅみを構築
- ・3つのダムに遊覧船 ・湯俣でのトロッコ電車の復活
- ・七倉駐車場の拡充 ・黒部ダム・高瀬ダム観光の連携（4つのダムの連携）
- ・渓谷への周遊バスの乗り入れ 等

<参考となる取り組み>

- ・大町市子ども体験学習号
エネルギー博物館など体験活動の場への送迎として、土・日曜日、夏休み等に各地区公民館、博物館、図書館等を巡回している。
バスの運行にあわせ、観光ボランティアを添乗したり、工作教室や学芸員によるミニ講座等の体験活動を実施している。
- ・日本唯一の薪バス体験乗車
大町エネルギー博物館では、薪ガスで走るボンネットバスを復元し、体験乗車を実施している。



大町エネルギー博物館の薪バス



大町市民バス「ふれあい号」の運転ルート（「子ども体験学習号」時刻表案内パンフレットより）

○高瀬3ダムの存在を伝えるサインの整備

- ・大町ダム、七倉ダム、高瀬ダムの3つのダムへの来訪者の円滑な誘導と、ダムの存在のアピールをかねて、高瀬渓谷下流域からの道路標識等の表示やダム周辺のサインの充実を図る。
- ・大町ダムへの近づきやすさを向上させる案内表示や高瀬渓谷に位置する3つのダム（大町、七倉、高瀬）の名称を表示した案内表示を検討していく。

<具体化のアイデア>

- ・箆川付近の道路標識の修正（大町ダムを通過して葛温泉に行く案内板に修正）
- ・3つのダムの存在を知らせる看板の設置
- ・ダムに立ち寄りたくなるデザインやロゴマーク等を用いたサインの設置 等

○歩いて楽しむルートの充実

- ・大町ダム周辺の豊かな自然環境を、ゆったりとした時間の流れの中で満喫できるトレッキングエリアとして活用する。一例として大町ダムを拠点にした里山のトレッキングコース（大町ダムと国営公園を結ぶルート等）の整備が考えられる。
- ・今後具体化にあたっては、ルート整備後の維持管理、安全確保のあり方と一体で検討を進める必要がある。

<具体化のアイデア>

- ・大町ダムと国営公園を結ぶルートづくり（龍神湖－前越平－国営アルプスあづみの公園へのトレッキングコースの設定、林道親沢線、前越線の利用等）
- ・高瀬入から籠川までを結ぶトレッキングコースの整備
- ・大町ダムから上流側へ移動できる散策路の整備

等

○ダム、温泉、水にまつわる歴史的資源の活用

- ・高瀬渓谷一帯の温泉や水に関して忘れ去られつつある歴史的な言い伝えや人と水との関わりを掘り起こし、周知、伝承していく。
- ・ダムに沈んだ資源（槍ヶ岳登山道の名残、森林軌道の跡等）の発掘、湯道の石仏等の紹介、水や湯に関する史実のとりまとめが一例として考えられる。

<具体化のアイデア>

- ・槍ヶ岳登山道の名残、森林軌道の跡の周知
- ・「ダムに沈んでも開花したヤマザクラ」などダム整備にまつわる逸話の紹介
- ・水や川、温泉等にまつわる地域の史実を正確な伝承
- ・時代とともに変化する俗説の発掘、確認
- ・高瀬川流域に発達した温泉史のとりまとめ（高瀬川温泉史関連の文献を中心に作成）
- ・湯道の石仏等の紹介

等

<参考となる取り組み>

- ・既に発行されている書籍等で高瀬渓谷の温泉等にまつわる歴史の一部が紹介されている。

ブルーガイド旅読本 上高地安曇野 輝ける大地の自然と人 大町山岳博物館 編

V. 地域産業の活性化（はってん）

～持続性ある観光振興への寄与～

ダムとその周辺資源を都市との交流、滞在型観光の振興に活用！

○資源を活かした持続性ある観光振興への寄与

- ・近年、来訪者が滞在してじっくり楽しんだり、やすらぎ癒されるような保養地としての機能が観光地に求められている。高瀬川流域の豊かな自然資源とふれあう観光資源のひとつとしてダムやその周辺の施設を活用し、滞在して楽しむニーズに応えることのできる体験や交流の機会を創出していく。

＜具体化のアイデア＞

- ・源泉である七倉での滞在、宿泊型利用促進、七倉の広場を活かした市場などの催しの実施
- ・観光コースの設置とパンフレット作成、旅行者へのPR
- ・都市と農村の交流事業の企画（J Aで実施）の拡充
例：農産物の収穫体験（リンゴ、イチゴ等）と高瀬渓谷めぐり
- ・七倉での農産物販売（市場の開催）
- ・溪流釣りの多様な楽しみの提供、釣りを通じた地域振興
- ・箆川でのキャッチアンドリリースの奨励、釣り情報の発信
- ・北安中部漁協 釣り堀の利用促進

等

＜参考となる取り組み＞

- ・ふるさと探検隊（大北管内を巡るバスツアー企画）
- ・北アルプスグリーンツーリズム推進協議会による体験ツアーの提供（どっぷり信州田舎体験；黒部ダム・高瀬ダム見学、仁科三湖でのカヌー体験等）



「どっぷり信州田舎体験」
北アルプスグリーン・ツーリズム推進協議会
(北アルプス観光協会のパンフレット)

区別	主要な観光コース	観光地	観光地	観光地
小谷村	黒部川下流	黒部川下流	黒部川下流	黒部川下流
	黒部川上流	黒部川上流	黒部川上流	黒部川上流
白馬村	白馬村	白馬村	白馬村	白馬村
	白馬村	白馬村	白馬村	白馬村
美麻村	美麻村	美麻村	美麻村	美麻村
	美麻村	美麻村	美麻村	美麻村
八坂村	八坂村	八坂村	八坂村	八坂村
	八坂村	八坂村	八坂村	八坂村
大町市	大町市	大町市	大町市	大町市
	大町市	大町市	大町市	大町市
松川村	松川村	松川村	松川村	松川村
	松川村	松川村	松川村	松川村
池田町	池田町	池田町	池田町	池田町
	池田町	池田町	池田町	池田町



「バスで行くふるさと探検隊」
北アルプス広域連合
(企画進行係作成のチラシ)

- ・西野川のキャッチアンドリリースの事例（木曾郡三岳村）

三岳村を流れる西野川下流の約2km区間を再び昔ながらの河川に戻す一環として、キャッチ&リリースエリアが設定されている。エリア設定前の平成12年度には、三岳支部での入漁券の販売数は、224枚であったが、設定後の13年度では1,135枚と大幅に増加した。

取り組むうえでの配慮事項の整理

○環境保全と利用のバランスの確保

「森林生態系保護地域」の「保存地区」や「自然公園地域」の「特別地域」や「特別保護地区」等、自然の保全を優先するエリアではオーバーユースを避ける。

一方でダムを活かした活性化には、より多くの人々にきていただくことも重要である。ダムおよびダム周辺は、気軽に訪れるための導入部であり、ダムから下流の高瀬川に沿いは、地域と連携しながらより多くの人々の交流を図ることができるエリアと考えられる。

○安全管理、維持管理への配慮

新たな施設の整備が伴う場合は、維持管理や安全管理の体制について

も考えていく必要が生じる。山地での散策や河川の利用にあたっては、利用者が個々に安全に留意していくことが基本となるが、自然の中での体験の経験や知識の異なる様々な人々が、多様なスタイルで周辺の自然とふれあう場合を考慮して、安全管理に努める必要がある。

○段階を追って深みを増す取り組みの推進

ダム周辺から上流にかけてはクマやサルもすむ自然環境の豊かなエリアであることを念頭に置いて、野生生物との接し方に留意した利用が求められる。ダム自体もこのような区域に接することから、自然との親しみ、ふれあいを徐々に深めていく体験の機会をつくり、それを運営できる仕組みを構築することが重要になる。とくに、導入部分では、一過性の体験に終わらず、継続的な取り組みに発展させていく必要がある。

○地域の豊かな人的資源との連携

様々な体験、交流の機会を充実させるために、博物館、学校、地域の専門家、NPO組織などと実施主体との連携を強化し、人材の確保、育成に努めることが重要である。

さらに、流域の住民を中心にした取り組みを重視する必要がある。住民から得られる反応をフィードバックしてより良いものとしていく仕組みは大きな効果が期待できる。

また、このような取り組みの基盤となる各種情報の収集、蓄積、交換を積極的に行うことも重要である。

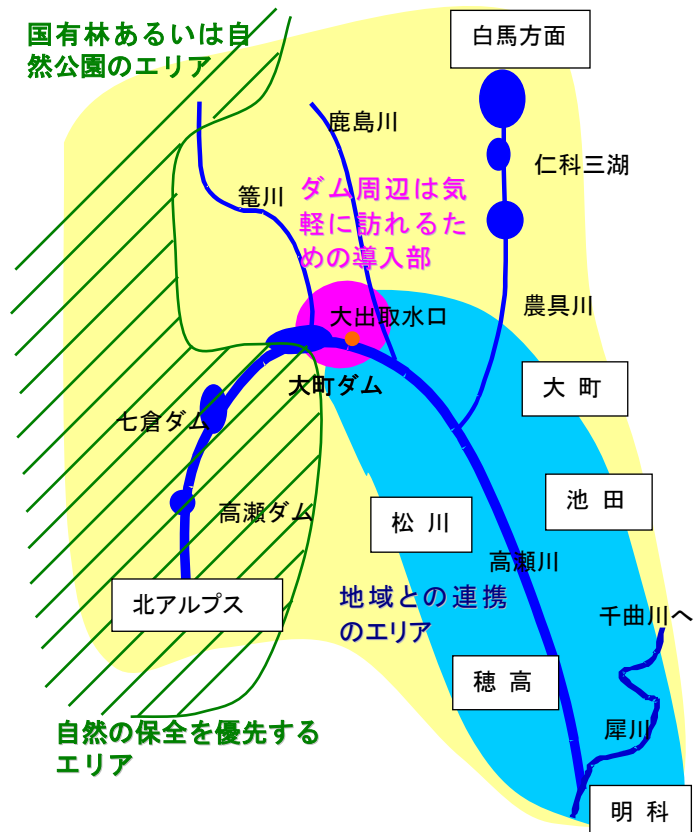


図 利用イメージの模式図

4

ビジョンでの取り組み

大町ダム水源地域ジョン 取り組みの体系

方向性	取り組み(具体化のアイデア)
ダムの開放 ダム湖利用 (いかす) Activity	○ダム資料室からの情報発信 (自然や水の歴史などに関する展示の充実、ダム情報の発信)
	○龍神湖の散策コース利用者サービスの充実 (案内サイン、指導標の充実等)
	○高瀬渓谷緑地公園の改善 (花等の植栽充実、遊具設置等)
	○ダムへの関心を高める広報・活動の実践 (親しみやすいパンフレットの作成、最新の情報提供)
	○ダム湖一帯での水辺レクリエーション利用 (周辺一帯をアウトドアスポーツの場として利活用)
体験学習 (たいかん) Learns	○総合学習の場の提供 (ダム、水利用、自然環境の体験学習の場の提供)
	○学習を支える人材・ツールの充実 (ガイドブック、ニュースレター、自然観察ノートの活用による情報提供の充実、インタプリター等の人材確保、支援体制の構築)
	○遊べる・学べる・親しめる水辺の創出 (親水公園、オートキャンプ場、淡水魚博物館等河川敷の野外レクリエーション空間整備・拡充、都市住民の自然体験、上下交流キャンプ等交流の場の提供)
	○高瀬渓谷の豊かな自然の探勝 (美しい渓谷の風景のPR、静かな湖面の保全、鑑賞)
参加・交流 (ふれあい) Orientation	○自然・歴史的資源を活かしたイベント (堆砂の資源化・頒布、流木を使ったクラフト体験)
	○集客力向上のためのしかけづくり (高瀬渓谷フェスティバルの実施継続 各種イベント、写真や絵によるコンテスト等の企画・実施、特典顕彰によるイベント集客の方法)
周辺施設・資源 の利活用 (れんけい) Network	○展示・解説に関する施設の連携・役割分担 (テブコ館、エネルギー博物館、ダム資料室、地下発電所等の展示における相互連携)
	○高瀬渓谷一帯を楽しむ多様な移動手段の創出 (ダムを拠点とした回遊型の移動手段:マウンテンバイク、低公害バス等の利用、高瀬渓谷観光との連携)
	○高瀬3ダムの存在を伝えるサインの整備 (道路標識等におけるダム施設案内・誘導の拡充)
	○歩いて楽しむルートの充実 (里山トレッキングコースづくり、登山道との連携)
	○ダム、温泉、水にまつわる歴史的資源の活用 (ダムに沈んだ資源の掘り起こしと情報発信、湯道の石仏等の紹介、水や湯に関する史実等の伝承)
地域産業の 活性化 (はってん) Growth	○資源を活かした持続性ある観光振興への寄与 (体験・滞在を重視した「高瀬渓谷巡りと農業体験の連携」等による観光資源の創出、キャッチアンドリリースの奨励等多様な釣り場の実現)
	○観光に関する情報・人材のネットワークの形成 (市街地へのリアルタイムの情報提供、広域的な観光利用に対応できる連携の充実、リーダー等の人材確保等既存博物館の特色付け、連携の強化)

注)なお、()内の取り組み内容は現段階でのアイデアであり、今後、実現のための課題を解決し、実施主体等の詳細な計画をまとめていく必要がある。

I. ダムの開放・ダム湖利用（いかす）

～ダムへの親しみやすさの向上～

ダム資料室の拡充、広報活動、レクリエーション利用の推進等により、ダムへの親しみをアップ！

○ダム資料室からの情報発信

- ・ダムや流域に関する情報をリアルタイムに提供できるような展示とする。あわせて写真、図、クイズ形式の展示の導入等により、親しみのもてる内容へと転換を図る。
- ・流域の発展と水利用の歴史の説明の充実を図る。
- ・水害や水の大切さ等が忘れられつつある現状を踏まえ、44 災などの水害の経験や水害の歴史とダム建設などの説明の充実を図る。水害等の記録写真を地域の住民から収集する等、情報収集も多方面から行う。

<具体化のアイデア>

- ・自然を対象とするポイントを絞った展示（カービングや剥製の導入）
- ・滞留可能な内容への転換
- ・写真、図の多い展示、クイズ形式の展示の導入
- ・ダム管理の情報提供、情報ステーションとしての整備
- ・ダムの安全性の理論的、科学的なPR
- ・上流側の降雨情報提供の充実
- ・大町ダムに関する記録を整理（市民から当時の写真を収集、借用）

参考例「あこのころの天龍川」

「語りつぐ天龍川」（冊子）

（天龍川上流工事事務所）

- ・大町ダム管理所資料室の「水の博物館」としての機能充実

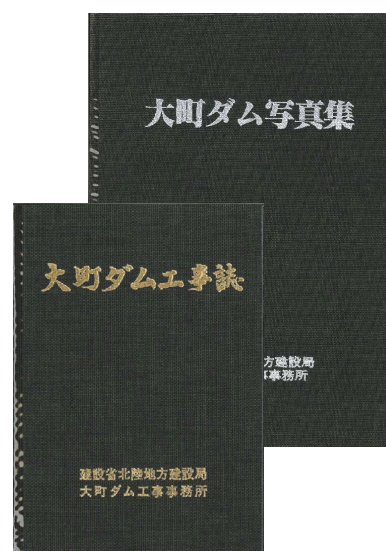


体験学習の場として活用しているダム資料室
（平成 13 年）

等

<参考となる取り組み>

- ・ダム建設の過程は、「大町ダム工事誌」や「大町ダム写真集」等でまとめられている。
- ・44 災当時の大町市の広報を拡大したパネルを管理所休憩室に展示されている。
- ・大町市内の利水の歴史は大町市史「近世編」「民俗・観光編」等にまとめられている。



○龍神湖の散策コース利用者サービスの充実

- ・利用や安全面での配慮とサイン等による案内の充実を図る。とくに道標、説明案内等の表示板、連絡用電話を拡充し、散策路コース利用者が安心して利用できる環境づくりを進める。

<具体化のアイデア>

- ・龍神湖の散策コース（以下、散策コース）に現在地、距離や時間を表示した道標の設置
- ・散策コースや金沢広場にわかりやすい案内板の設置
- ・飲食湯茶のサービスのある休憩所の設置 ・散策コース開放期間の拡大 等

<参考となる取り組み>

- ・施設案内図（フィールドマップ）を頒布^{はんぷ}。
- ・巡視路として必要な案内板（現在地、距離や所用時間を表示）や監視カメラの設置等により、案内サービスの向上や安全管理機能の強化に取り組んでいる。



現地で配布されているフィールドマップ

○高瀬渓谷緑地公園の改善

- ・高瀬渓谷緑地は、大町ダムに接したオープンスペースとして利用されている。今後も利用者のニーズに応じながら、必要な改修等を行う。
- ・湖面の眺望が遮られている展望台周辺の樹木を整理し、眺望を確保したり、花を植える等の植栽整備や遊具の設置を検討する。

<具体化のアイデア>

- ・展望台からの眺望確保
- ・高瀬渓谷緑地の植栽整備
- ・高瀬渓谷緑地に遊具の設置 等



高瀬渓谷緑地公園

○ダムへの関心を高める広報・活動の実践

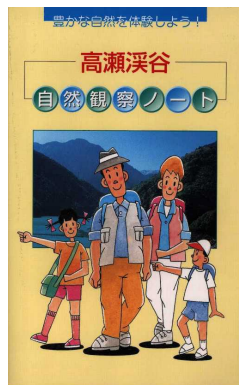
- ・ダムと流域住民との距離を近づけるため、ダムへの関心を高めたり、住民がダム及びダム流域の修景とよりよい環境づくりに参加できるしくみをつくりだす。
- ・既存パンフレットの有効利用や親しみやすいパンフレットの作成・配布を通じ、ダムの周知、広報を充実させ、流域住民等のダムに対する親近感を高めていく。
- ・環境美化活動を地域住民の参加により実践するなど、地域とダムの一体感を高めていく。

<具体化のアイデア>

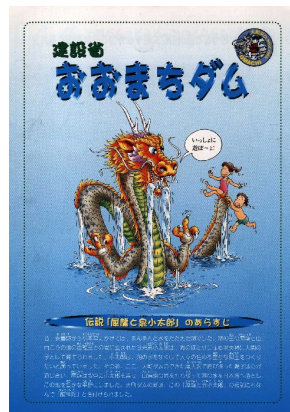
- ・親しみやすさを増したパンフレット等の作成
- ・既存パンフレット（ダムの風だより、概要パンフレット、子供向けパンフレット）の活用、改訂
- ・地域と連携した空き缶清掃等のクリーン作戦 等

<参考となる取り組み>

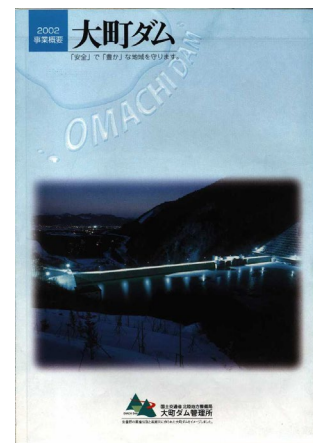
- ・ダムの風だより、事業概要パンフレット、子供向けパンフレットのうち、風だよりを主に活用している。（新聞折込や管理所入口に設置）
- ・大町ダムホームページに「まどぐち 山・川・海・湖の相談室」を設置している。
- ・資料室に利用者アンケートを常設し、利用者の意見要望等を収集している。
- ・東京電力㈱は空き缶拾い等周辺の美化活動に取り組んでいる。



高瀬渓谷自然観察ノート



大町ダムの子供向けパンフレット



大町ダム事業概要パンフレット

○ダム湖一帯での水辺レクリエーション利用

- ・大町ダム・龍神湖一帯での水辺レクリエーションの場としての機能を高め、利用を推進していく。一例として湖面を活かしたアウトドアスポーツの場としての利用が考えられる。
- ・なお、実現にあたっては、安全確保等の体制整備が重要であるほか、大町市内の仁科三湖との役割分担等を明確にするなどの配慮が重要となる。

<具体化のアイデア>

- ・アウトドアスポーツ関連施設の整備
- ・湖面等の冬季利用の促進 ・ダム湖に釣り場を設置
- ・ダム湖を利用した、いかだやカヌーなどの体験学習（インストラクター設置）
- ・湖面やダム周辺的环境を活かした船舶、自転車の各種レース等の開催 等

Ⅱ. 体験学習（たいかん）

～魅力ある豊かな森や水への誘い～

水やダム周辺の豊かな自然をきっかけにした新たな発見や知見、五感を通じた実体験の場を提供！

○総合学習の場の提供（ダム・水利用、自然環境の体験学習）

- ・ダムのもつ様々な機能や役割を流域に暮らす子どもたちやその親たちに知らせ、水の大切さや価値、重要性等を実感できる総合学習の場としてダムを有効に活用する。
- ・ダム周辺の豊かな自然環境を、自然や森、水辺の学習の場として活用する。
- ・一方的な説明や講習だけでなく、管理作業等の体験、屋外での観察等、五感を活かして実態にふれ、観察力を養う活動ができるよう配慮する。

<具体化のアイデア>

- ・ダムを水の価値を知らない子供たちの勉強の場として活用
- ・ダムの監査廊の開放・見学会の継続
- ・ダムのメリット・デメリットのわかる、バランスのとれた教育の実施
- ・子どもたちに体験学習を通じて水の怖さ、歴史、水遊びの啓蒙
- ・ダム管理業務の学習（流木清掃等の現場見学）
- ・自然観察会、学習会の年間プログラムの作成、実施
- ・ダム周辺の地形・地質、鉱物の学習、動物や植物（カモシカ、クマ、ムササビ、タヌキ、チョウ類等、ブナ、ミズナラ林などの広葉樹林等）をテーマにした環境学習等

<参考となる取り組み>

- ・毎年県内外の学生を招いて体験学習を開催。ダムに関する学習の場、ダムの仕事が体験できる場として提供。
- ・大町市生涯学習フェスタ(10月、11月の2ヶ月に集中して実施)では、仁科三湖の生い立ちと環境の移り変わり等もテーマとして実施。(平成14年10月12日)

平成14年度 大町ダム見学者の内訳

実施日	利用者	人数	内容その他
5月20日	仁科台中学1年生	166	総合的な学習の時間
5月31日	大町西小5年生	46	総合的な学習の時間
6月8日	平地区子供会	141	大人33、子供92、中学6、幼児10
6月26日	大町北小学校	35	総合的な学習の時間 小学5年生
7月17～18日	大町市立第一中学校3年	4	中学生職業体験
9月5日	仁科台中学2年生	3	中学生職業体験
10月10日	横浜市立港南台第三小6年	12	総合的な学習の時間(修学旅行)
12月5日	大町市立第一中学校2年	4	中学生職業体験

(大町ダム管理所資料より)

「いきいき大町 生涯学習フェスタ 2002」

さまざまな学習にゆかりの機会や学習活動の場を自由に選ぶことができ、学びの場を多様化していただくのが目的です。このようにまちづくり(生涯学習推進)の形を捉えていただくことを目指しています。

そこで、10月8日から11月20日の2ヶ月をいよいよ「生涯学習フェスタ」として定め、期間中に市民・共催・共催していただける事業や団体・企業などで行われる各種体験学習を行います(大町市生涯学習フェスタ2002)として実施しています。本事業の開催を通して皆さんの学習活動の活性化に、生涯学習の普及・啓発・振興が図れることを期待しています。

※本事業の開催の開催地(会場)はまた別途案内・配布・掲載するチラシなどをご覧ください。

問い合わせ先 ① については市役所代表電話番号 22-0420 をご覧ください。

参加プログラム 大町市(県・国際)が主催・共催して実施する生涯学習関連事業

信州大学出前講座
仁科三湖の生い立ちと環境の移り変わり

- 日時/平成14年10月17日(土) 14:00～16:00
- 会場/大町市生涯学習センター
- 講師/仁科三湖の環境保全を推進するための学習会です。
- 申込/大町市生涯学習推進課 又は大町市生涯学習センター 又は各公民館
- 申込先/生涯学習推進課 電話: 22-4750
- 問い合わせ先/大町市生涯学習センター 電話: 22-4750

社地区ミニ文化祭・民俗資料館特別展

- 日時/11月1日(金)～11月4日(日)
- 会場/大町市生涯学習センター(大町市生涯学習センター)
- 内容/文化祭・民俗資料館特別展
- 申込/大町市生涯学習推進課 又は大町市生涯学習センター 又は各公民館
- 問い合わせ先/生涯学習推進課 電話: 22-4750

読み聞かせの輪を広げる学習会

- 日時/10月27日(日) 18:30～20:30
- 会場/大町市生涯学習センター
- 講師/読み聞かせの活動員: こまねこ児童館
- 申込/大町市生涯学習推進課 又は大町市生涯学習センター 又は各公民館
- 問い合わせ先/生涯学習推進課 電話: 22-4750

平成14年度大町市文化祭

- 日時/11月2日(土)～11月4日(日) 9:00～17:00
- 会場/大町市生涯学習センター(大町市生涯学習センター)
- 内容/文化祭・民俗資料館特別展
- 申込/大町市生涯学習推進課 又は大町市生涯学習センター 又は各公民館
- 問い合わせ先/生涯学習推進課 電話: 22-4750

第20回常盤少年駅伝大会

- 日時/10月27日(日) 8:00(予定)～12:00
- 会場/大町市生涯学習センター
- 申込/大町市生涯学習推進課 又は大町市生涯学習センター 又は各公民館
- 問い合わせ先/生涯学習推進課 電話: 22-4750

仁科の里 婦人の家まつり

- 日時/11月1日(日) 10:00～15:00
- 会場/大町市生涯学習センター
- 内容/婦人の家まつり
- 申込/大町市生涯学習推進課 又は大町市生涯学習センター 又は各公民館
- 問い合わせ先/生涯学習推進課 電話: 22-4750

「いきいき大町 生涯学習フェスタ 2002」の
案内(大町市生涯学習のまちづくり推進本部)

○学習を支える人材・ツールの充実

- ・多様で充実した内容の総合学習等を実践していくための基盤となる人材確保や教材づくりを推進する。
- ・多様な学習ニーズに応えられる体制や教材づくりを進めるため、ダムと流域内の博物館や専門家等との連携を強化するとともに、自主的な支援組織などの構築も検討していく。

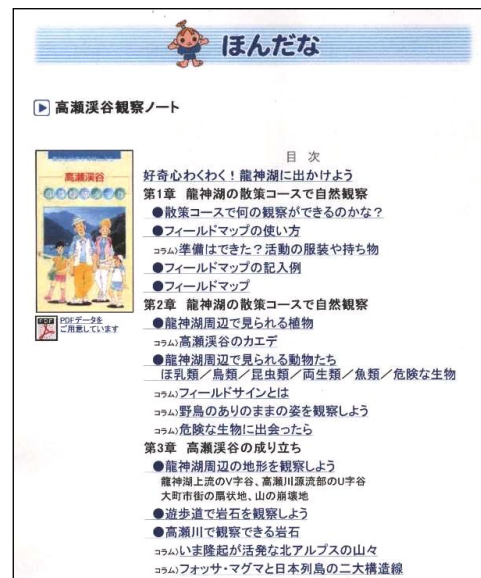
<具体化のアイデア>

- ・環境学習の魅力アップのためのニュースレターの発行
- ・治水、利水、電気などについて更にわかりやすいガイドブック発行
- ・高瀬渓谷自然観察ノートの有効活用
- ・わかりやすくダムや自然を説明できるインタープリターの養成講座の開講
- ・インタープリターによる出前講座の実施、総合学習の支援
- ・エコポイントやエコマネーを活用したボランティア組織の構築
- ・ダム友の会などの支援組織の構築

等

<参考となる取り組み>

- ・大町ダムホームページでの「ひろげよう 周辺情報」では、ダム周辺の美しい自然や、周辺で見ることのできる様々な動植物の写真を発信している。
- ・高瀬渓谷自然観察ノートは大町ダムホームページからダウンロードが可能。
- ・高瀬渓谷観察ノートや湖畔の環境整備の際にアドバイス等をいただいた学識経験者、山岳博物館関係者と必要に応じて連携してきている。



大町ダムホームページより
<http://www.hrr.mlit.go.jp/omachi/index.html>

○遊べる、学べる・親しめる水辺の創出

- ・ダムの下流を中心に高瀬川水系の水辺を「遊び」「学び」の場として活用していく。とくに、水との接し方、川とのつきあい方を十分に知り得ていない子どもたちが、水に親しめる環境づくりに留意する。
- ・例として高瀬川水系の資源を活かし、水遊び、川の観察会（水質・石など）、草木、石によるクラフト体験等草木によるクラフト体験、用水を活かした水や生き物の学習の機会の確保や、高瀬川河川敷の有効利用による野外レクリエーション空間（親水公園、オートキャンプ場、淡水魚博物館など）の整備・拡充等が考えられる。
- ・なお、実現にあたっては、ダムから下流の高瀬川流域における水に関わる様々な取り組みとの連携が重要になると考えられる。

<具体化のアイデア>

- ・ 下流域で河川敷を利用したスポーツ施設の整備・拡充
- ・ 水辺の活用として一日楽しめる親水公園の設置（管理方法も合わせて検討）
- ・ ボランティアを活用した河川敷にオートキャンプの整備
- ・ 淡水魚博物館の整備
- ・ 子供たちの海と山の交流、サポーターの登録等の実施
- ・ 上下流域の交流キャンプの実施（参考：味噌川の事例）
- ・ 河原での流木拾い、木の実、葉、枝等を使った自然工作クラフト等の体験
- ・ 田舎の自然留学（自然体験、クラフト体験等）
- ・ 土地改良区、学校等による用水や河川での水辺の観覧会の実施
- ・ 高瀬川と千曲川の水の流れの違いをわかりやすく解説
- ・ 水源地に住む子供たちに水遊び、水に触れる機会を設定
- ・ 草木によるクラフト体験、用水を活かした水や生き物の学習 等



落ち葉や木の実を使ったクラフトの例

<参考となる取り組み>

- ・ 高瀬川の河川敷には公園等のオープンスペースが8箇所ある。高瀬川高水敷整備促進期成同盟会（大町市、穂高町、池田町、松川村、明科町）が組織され、整備が進められている。
- ・ 農具川では、農具川の再生を求める住民ボランティアの集い「農具川環境美化委員会」により高水敷等への花の植栽、蛍水路づくり、河川の清掃活動が行われている。このほか、小学生の体験学習（水生生物の観察等）も行われている。

○高瀬渓谷の豊かな自然の探勝

- ・ 高瀬渓谷一帯での観光利用と環境保全のバランスを保ちながら、渓谷全体をありのままの自然のよさや美しさを満喫できる空間として持続させていく。
- ・ そのために静かな湖面での風景の楽しみや、豊かな自然の周知を進める。

<具体化のアイデア>

- ・ 美しい自然を活かした観光のアピール（バランスのとれた利用や手入れの行き届いた環境を大事にした観光利用）
- ・ 季節毎の変化する美しい風景のPR、鑑賞、湖面の鑑賞
- ・ 3つのダム静かな環境の保持 等

<参考となる取り組み>

- ・ 観光協会ホームページの高瀬渓谷の案内
- ・ 大町ダムホームページでのダム付近の「いま」を写真等で随時更新しながら紹介



大町市観光協会ホームページより
http://www2.city.omachi.nagano.jp/html/kanako_guide/kanko.asp?dspno=11



大町ダムホームページより
<http://www.hrr.mlit.go.jp/omachi/index.html>

○観光に関する情報・人材のネットワークの形成

- ・体験や交流に主眼をおいた観光利用ニーズに対応するために、人材確保、情報交流を充実させていく。流域内のセンター（核）となる拠点どうしの相互関係の強化を図り、人材や情報の共有化や交流を深め、効果的なネットワークの形成を推進する。
- ・現在ある情報や人材を基盤にしつつ、段階を追って人材を徐々に育成したり、関係組織相互の連携を深めてネットワークを発展させていくことが重要である。

<具体化のアイデア>

- ・広域的な地域間でのボランティア組織などによる協力やリーダーの育成
- ・大町市域、大北地域を挙げての広域の連携、観光利用の促進
- ・大町にセンターとなる拠点の設置、ネットワークの充実（情報センター的な拠点の確保）
- ・高瀬渓谷をひとつの「センター」として今ある周辺施設と有機的にネットワーク化
- ・大町市内にあるミニパークにライブカメラを設置し、ダムでのPRの場として活用。黒四ダム来訪者を高瀬方面に誘致
- ・観光客へのアンケート調査実施によるニーズの把握
- ・博物館の連携強化による発展、特色付け構想
既存の博物館の特徴をふまえ、《水の博物館》《岳の博物館》《生活誌博物館》として役割をもたせ、連携を強化。

<連携の例>

- ・総合博物館＝大町山岳博物館
- ・岳の博物館＝大町山岳博物館、東山低山帯野外博物館
- ・水の博物館＝大町ダム管理所資料室、高瀬川テプコ館、大町エネルギー博物館
- ・生活誌博物館＝酒の博物館、塩の道博物館、アルプス温泉博物館、大町郷土玩具博物館

<テーマ例>

- ・水と生命：地球上における水の起源、生命の誕生、生命を維持する水の役割と働き等について展開する。
- ・水の循環：水による浸食や堆積、大地の形成や湖や川の働き等を水の循環を中心に展開する。
- ・水と歴史：大町市の姿を自然や風土、歴史、生活、まちづくりなど、水を中心に総合的な視点で展開する。
- ・水の利用：水資源の過去・現在・未来。大町市の水と農業、水と電力、水と生産業、水と観光、水と生活等多様な水利用の姿を展開する。
- ・水と科学：水の化学的な文責、実験を通しその性格や特性を学び、未来における可能性について展開する。
- ・水と文化：世界における水と暮らし、まちづくりや文化等の紹介を通し水の恩恵と活用の知恵を学ぶ。

<参考となる取り組み>

- ・大町市観光ボランティア
(29人登録、アルペンルートガイド、体験学習号への添乗等)
- ・北安曇地域の生涯学習関連の人材確保の取り組み
大町市：「大町生涯学習リーダーバンク」
松川村：「グリーンツーリズム推進協議会」
池田町：「I（あい）ネット」
白馬マイスター制度

白馬を知りつくした「白馬マイスター」とともに一味違うアウトドア・ライフを過ごせる常設プログラム（1講座500円 4月～11月実施）



白馬マイスター制度の案内パンフレット

5

ビジョン実現化の方策

ビジョンの理念、方向性に沿った取り組みを実現するための方策を整理する。

(1) ビジョン実現に向けての方針

○可能な取り組みから着実に進める

実施体制や予算確保等の問題をはじめとするビジョン実現をとりまく様々な情勢を勘案しつつ、早期に実現が可能な取り組みから着実に進めていく必要がある。

そのために、実現までの目標期間を明確にし、比較的短期間でできる取り組みを優先的に進める。

○ダムに来ていただく、知ってもらうことから取り組む

本ビジョンの目的であるダムを活かした地域の活性化を実現するためには、まず、より多くの人にダムや水、その一帯の地域について知ってもらうことが重要である。

「ダムに来ていただき、ダムを知ってもらうこと」に通じ、比較的早期に実現可能な取り組みは総合学習の場の提供やイベントでの工夫であると考えられる。

○実施のための体制づくりを進める

本ビジョンでの個々の取り組みを実現するには、様々な機関の相互連携が必要である。関係する機関等の役割分担を明確にするとともに、円滑に連携を進めることができる体制を構築する必要がある。

(2) 実現の目標期間

それぞれの取り組みの実現には、実施中あるいは計画中の施策の有無、実現にかかわる体制や予算の確保の難易度に違いがあり、これらが実現までの期間を左右することになる。この点を考慮し、取り組みの内容に応じた実現までの目標期間のめやすを持ってビジョンを実現させていくことが重要である。

<目標期間の設定案>

● 3年以内を目標に実現を目指す取り組み

(すでに実施されている取り組みの継続・工夫による充実)

現在の取り組み実施体制で、情報伝達の方法、小規模な費用の確保等の比較的軽微な工夫を加えることで実現が可能となる取り組み。

→早期に実現していくとことが可能な取り組みであり、実現めやすは概ね3年以内程度。

● 5年以内を目標に実現を目指す取り組み

(既存の取り組みをベースに体制等の拡大によって実現可能となる取り組み)

エリア内ですで行われている取り組みがあり、これをベースに実施体制等を拡充したり、連携を強化することで実現できる取り組み。

→関係機関との調整等、一定の準備や手続きを経て比較的早期に実現していくとことが可能な取り組み。実現めやすは概ね5年以内。

● 10年以内を目標に実現を目指す取り組み (先進的な取り組み)

国内や隣接地域に先進事例はあるものの、対象エリア内では実施例がない取り組み、または、国内や隣接地域に先進事例はなく、先駆けとなるような取り組み。

→関係機関との役割分担、企画・立案等からスタートし、地元のニーズの把握、実現のための課題解決、協議、利害関係の調整等、長期的な準備を経て実現を可能とする取り組み。実現めやすは概ね10年以内。

上記の3つの目標期間の設定と合わせ、実現のための役割分担を大町ダム、市町村、県、国、民間の関係機関に区分し、今後ビジョンの実現を図る。

図 取り組み実現の目標設定

(3) 実現体制づくり

ビジョン実現は、計画をたて、実行し、その効果や満足度を評価し、課題が生じればそれを解決し、再度計画にフィードバックしていく流れに沿って進めていくことでビジョンの実現を図る。これはビジョンの理念である“みんなできずくを出し持続可能な交流”を実行するためにも機能させたい。

さらに、このようなしくみを、関与する様々な機関が、相互に連携を深めながら進めることができる体制づくりに配慮する。

そのためには、具体的な取り組みの企画・立案、協議・調整を進めつつ、意志決定を進めることができる体制を構築する。ここでは検討された取り組みの実現を支援できる組織との連携を確保し、徐々に強化していくことが重要である。

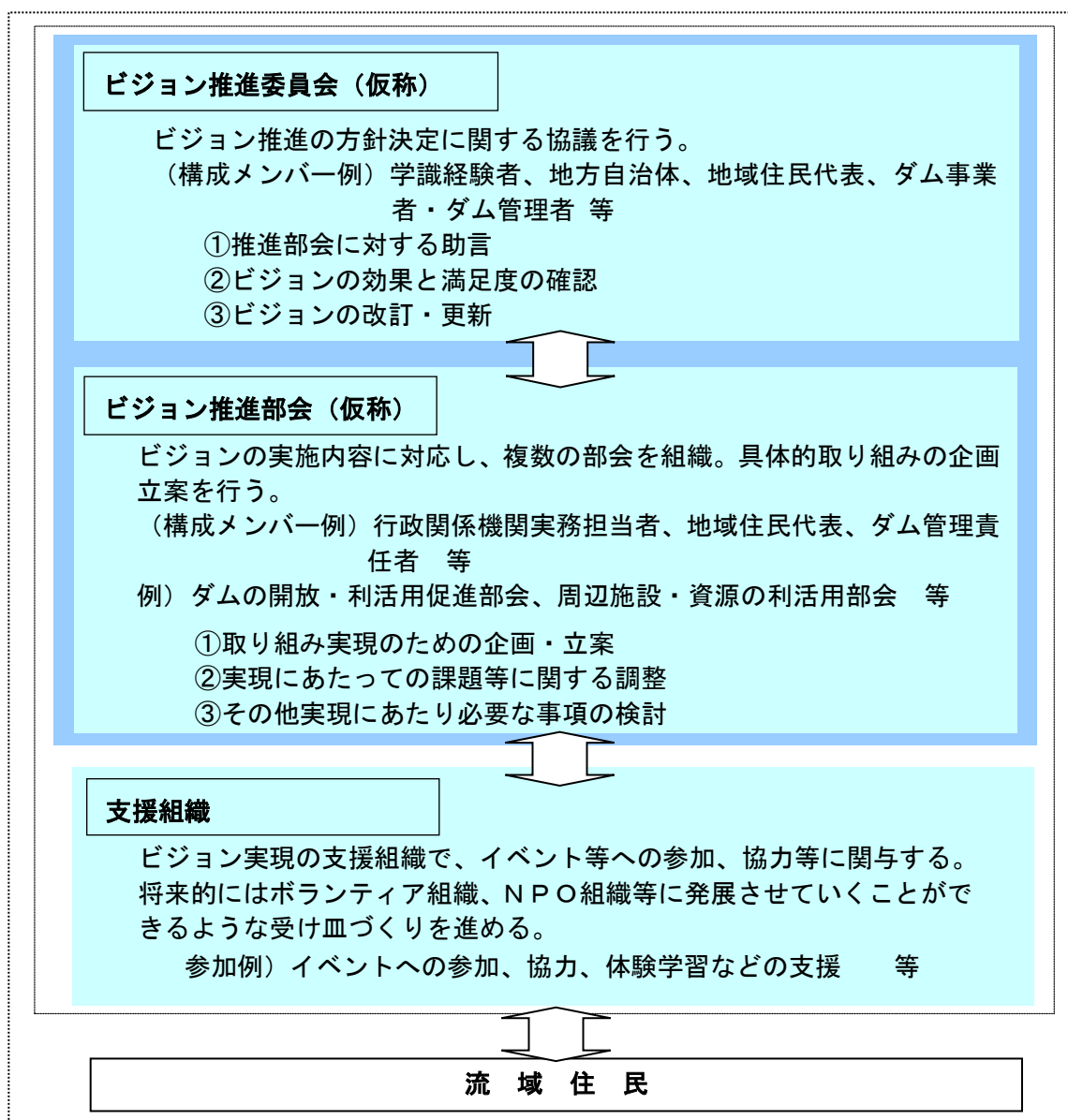
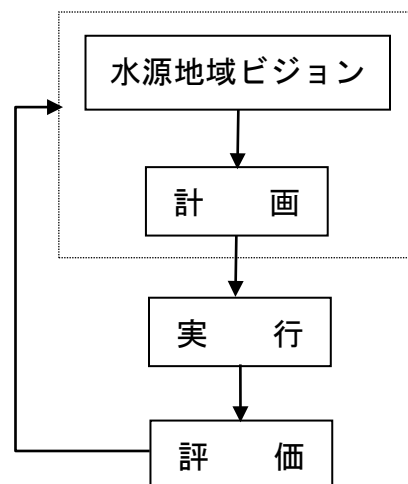


図 大町ダム水源地域ビジョン実現のための体制イメージ

大町ダム水源地域ビジョン 取り組み一覧

方向性	取り組み	取り組み内容と主な具体化のアイデア	目 標			役 割				
			概ね3年以内	概ね5年以内	概ね10年以内	大町ダム	市町村	県	国他機関	民間
ダムの開放・ダム湖利用 (いかす) Activity	ダム資料室からの情報発信	○分かりやすく、親しみのもてる展示の充実 ・自然を対象とした展示の充実 ・写真、図の多い展示、クイズ形式の展示の導入 ・ダム管理情報や降雨情報の提供等 ○地域の発展と水利用の歴史の説明の充実 ○水害の歴史とダム建設などの説明の充実 ・忘れられつつある44災などの水害の経験の伝承(水害の記録写真収集) ・ダム整備の必要性が高かったことの解説 等								
	龍神湖の散策コースでの利用者サービスの充実	○利用や安全面での配慮とサイン等による案内の充実 ・道標、説明案内等の標示板の充実 ・連絡用電話の拡充								
	高瀬渓谷緑地公園の改善	○利用者ニーズに応じた改修 ・展望台からの眺望確保 ・花を植える等の植栽整備 ・遊具設置等								
	ダムへの関心を高める広報・活動の実践	○親しみやすいパンフレットの作成、最新の情報提供 ・既存パンフレット(ダムの風だより、概要パンフレット、子供向けパンフレット)の活用・改訂等 ○地域住民参加による環境美化活動等の実践								
	ダム湖一帯での水辺レクリエーション利用	○周辺一帯をアウトドアスポーツの場として利活用 ・カヌー体験、ダム内での釣り場の提供 等								
	体験学習 (たいかん) L earns	総合学習の場の提供 (ダム・水利用、自然環境の体験学習) ○ダム、水利用の体験学習の場の提供 ・ダム、水利用の実態等の学習の場(監査廊の見学を含む) ・ダム管理業務の学習(流木清掃等の見学) ・水の価値・歴史の勉強の場 ○魅力ある環境学習の機会の提供 ・地質、鉱物の学習 ・野生動植物の学習 等								
参加・交流 (ふれあい) Orientation	学習を支える人材・ツールの充実	○実施のための情報提供の充実 ・ガイドブック、ニュースレター等の発行 ・自然観察ノートの活用、改訂 等 ○インタプリター等の人材確保、支援体制の構築 ・インタプリター養成講座 ・出前講座 ・友の会などの支援組織づくり ・エコポイント等によるサポーター、ボランティア組織の構築								
	遊べる・学べる・親しめる水辺の創出	○河川敷の有効利用による野外レクリエーション空間の整備・拡充 ・親水公園の整備 ・オートキャンプ場の整備 ・淡水魚博物館の整備 ○都市住民の自然体験、上下流の住民の交流の場の提供 ・上下交流キャンプ、海と山の交流等 ○高瀬川水系を活かした自然体験・学習機会の確保 ・水遊び、川の観察会(水質・流石) ・草木、石によるクラフト体験等								
	高瀬渓谷の豊かな自然の探勝	○美しい風景、静かな湖面の保全、鑑賞 ・四季の風景PR・湖面鑑賞、湖面の保全等								
	自然・歴史的資源を活かしたイベント	○自然資源を活かしたイベント ・堆砂の資源化、流木の堆肥化・配布、流木クラフト・インストラクター養成 等 ○和歌・俳句愛好者向けのイベント、旧道の史跡発見等のイベント								
		集客力向上のためのしかけづくり	○イベント、コンテスト等の企画、開催 ・写真、絵等のコンテスト ・注目度の高い取り組み(ダム壁面の活用、ダムの日設定等) ○高瀬渓谷フェスティバルの実施 ・吹奏楽演奏、スタンプラリー、近隣施設等への拡大、拡充等 ○特典、顕彰によるイベント集客の工夫							
		展示・解説に関する施設間の相互連携・役割分担	○テブコ館、エネルギー博物館、ダム資料室、地下発電所等の相互連携(展示等の役割分担の明確化)							
周辺施設・資源の利活用 (れんけい) Network	高瀬渓谷一帯を楽しむ多様な移動手段の創出	○ダムを拠点とした回遊型の移動手段の確保・充実 ・既存バス利用、周遊バスの乗り入れ、電動自転車、マウンテンバイク低公害バス等 ○高瀬渓谷観光との連携 ・3つのダムに遊覧船、湯俣・噴湯丘のトロッコ電車、七倉駐車場拡充、黒部ダム・高瀬ダム観光の連携、渓谷周遊バスの乗り入れ等								
	高瀬3ダムの存在を伝えるサインの整備	○道路標識等におけるダム施設案内・誘導の見直し ・ダム周辺の施設案内標識の改善 ・3ダム表示看板の設置 ・集客力のある看板設置								
	歩いて楽しむルートの充実	○多様なニーズに応えた上流のルート整備(大町ダムと葛温泉間の遊歩道整備等) ○里山トレッキングコースの整備 ・大町ダムと国営公園を結ぶルート作り(林道親沢線・前越線の利用等)								
	ダム、温泉、水にまつわる歴史的資源の活用	○ダムに沈んだ資源の掘り起こしと情報発信(旧槍ヶ岳登山道、森林軌道跡 等) ○湯道の復元、水や湯に関する史実等の伝承 ・高瀬渓谷・温泉史のとりまとめ、湯道の石仏等の紹介								
	地域産業の活性化 (はってん) Growth	資源を活かした持続性ある観光振興への寄与	○体験・滞在を重視した観光資源の創出 ・「農産物の収穫体験(リンゴ、いちご等)と高瀬渓谷めぐり」等の観光コースの設置・PR ・七倉での農産物販売(市場)、高瀬渓谷有料バスツアー企画 等 ○溪流釣りの多様な楽しみの提供 ・箆川でのキャッチアンドリリースの奨励、釣り情報の発信 漁協釣り堀の利用推進 等							
		観光に関する情報・人材のネットワークの形成	○広域的な観光利用に対応できる連携の充実 ・観光リアルタイム情報発信、市内ミニパークでのダム・渓谷のライブ映像提供、既存博物館の特色付け、連携の強化(水、岳、生活誌の博物館) ・観光ボランティア活用、情報センターの確保、施設間の情報・人材等のネットワーク強化等							

注)なお、……に示されている内容や()内の取り組み内容は現段階でのアイデアであり、今後、実現のための課題を解決し、実施主体等の詳細な計画をまとめていく必要がある。

湖面のすぐ下には、あるものが隠されていた。それは、既に1センチといえども、水面に顔を出していなかったが、明らかに水の色を変えるほどの量感のあるものであった。

堤は覗き込み、桜が水面下でほぼ満開であることを確認した。・・・・・・・・・・。

桜の最後の梢が沈んだのは、ほんの少し前だということは明らかだった。

「どっちだろうね」

上野は尋ねた。

「咲きながら沈んだのか、沈んでから咲いたのか」

曾野綾子著『湖水誕生』より

大町ダム水源地域ビジョン

みんなでずく出す すいりゅう・いきいきプラン

大町ダム水源地域ビジョン策定委員会 平成15年3月作成

(事務局)：国土交通省北陸地方整備局 大町ダム管理所内

連絡先：〒398-0001

長野県大町市大字平 2112-71

TEL 0261-22-4511 FAX 0261-22-4512